

様式A

令和5年度 幼稚園 ゆめプラン評価公表シート

和歌山市立紀伊幼稚園

教育目標 :健康で明るくたくましい子供を育てる

評価:A良好、B概ね良好、C要改善

ゆめ	重点目標	具体的取組	取組の状況	評価	
生き生きと遊ぶ子供を育てる 人間性等を育むための豊かな環境をめざして	環境を体験を通して	・園舎内外において、四季（草花や生き物など）を感じられるように環境を見直し工夫したりする。	四季の移り変わりや自然の美しさを園舎内外で感じられるような工夫をしている。今年度は苜蓿やアジサイを植えたり、坂道に生えているオシロイバナを園内でも遊びに使えるよう植え変えたりした。今ある環境を大切にしながら見直しを常にを行い子供たちの心の変化に気づけるよう取り組んでいきたい。	A	A
		・四季折々の野菜や植物を育て、友達や家族と一緒に食べる楽しさを味わったり、成長を喜んだりできるようにする。	子供達と一緒に種をまき成長を楽しみにしていった。今年まで野菜を園で調理しみんなで食べる機会を増やすことができた。また家庭に持ち帰って食べてもらうことで家庭と園が共有でき家庭での様子を知ることができた。	A	
		・発達段階に応じて、遊具や用具、素材などを十分に準備し、子供達の興味や関心の幅が広がるようにする。	教職員が同じ方向で環境を見直していく意識をもてるように取り組んだ。気になるときはすぐに話し合い、全クラスの子供たちの姿をしっかりと捉え準備することを心がけた。しかし、アンケートから園での取り組みがわからないと回答している保護者もいるのでクラスだよりや掲示等で知らせしていく工夫も必要だと感じた。	B	
	身近な人と親しむ機会を豊かに	・友達と一緒に遊ぶ中で、思いを伝え合う楽しさや大切さを知らせていくようにする。	友達と楽しさを共有している場面を捉え、教師も共感したり、うまく伝えられない場合は、具体的な言葉を伝えたりして自分の思いが伝わることの嬉しさを感じられるようにしてきた。	A	A
		・遊びや日々の生活を通して、クラスや異年齢の友達とかかわり、親しみの気持ちをもてるようにする。	クラスの隔たりがなく行き来し関わることで、刺激を受けたり、年下の子に優しくしたりしている姿が見られた。	A	
		・隣接する小学校との交流を通して、小学校への期待をもったり、幼稚園以外の友達とかかわったりする楽しさを味わえるようにする。	合同運動会や避難訓練・5年生徒の交流・学校探検を行った。また、授業の体育で大縄跳びをしているところに年長児も参加させていただいたりし、マラソンの様子を見せていただいたり、小学校への期待や身近に感じられる機会になった。	A	
	いろいろな気持ちや心を育む	・遊び込める時間を十分に取って、自発的な遊びがうまれる環境を工夫する。	好きな遊びが十分にできるよう時間を確保し環境を整え職員間で連携をとっている。自発的な遊びが生まれる環境について保護者にも知らせていくようにする。	A	B
		・自分の興味や関心のあることに主体的に取り組みながら、自尊心や思いやり、粘り強さ、人との協調性などが身に付けられるようにする。	子供たちが「やってみよう！」という思いが実現できるような環境を準備し援助を心掛けた。また頑張っている姿を認めたり友達に知らせたりしながら、達成感や共に喜びあえる気持ちをもてるようにした。	B	
		・子供の育ちを多面的にとらえ、保護者との連携を大切にできるようにする。	毎日の対話や園だより・クラスだより・掲示やHPなどを通して、園の取り組みや子供の育ちについて保護者に伝え、信頼関係を築いていけるようにしてきた。	B	

保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

保護者アンケート結果からは、全体的に肯定的な評価をいただいた。この結果から多くの保護者が園の取り組みを理解していただいていることがうかがえる。しかし、いくつかの項目で「あまりそう思わない」「わからない」と答えた保護者もいることを踏まえ、園で取り組んでいる内容についての伝え方をもう一度見直していく必要があると考えている。今後も保護者との信頼関係をしっかりと築きながら、園と家庭が同じ方向に向かって子供を育てていけるようにしていきたい。

今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

今年度は、コロナも5類と変更になり、少しずつ緩和されてきたことで色々な取り組みができた。また取り組みにあたり、「子供の学びに向かう力・人間性等を育むための豊かな環境」について、今の子供たちに必要なことは何かということと考え、検証しながら取り組んできた。また、職員間で環境や子供について同じ方向で進んでいけるよう話し合いを心がけてきたことで、子供たちの変化に気づき課題を共有することもできた。今後も子供の育ちについて職員間で共通理解するとともに、保護者には、いろいろな方法でしっかり伝えられるよう工夫し、信頼関係を築いていきたい。

学校(幼稚園)関係者評価委員による自己評価の検証

全クラスの子供を常に職員全員で連携を取りながら、見守ることで、子供も保護者も安心できている。また、自発的な遊びが生まれるようないろいろな環境を整え、十分な時間を取ることで、成長につながっている。幼稚園では土台を作ってくれている。今すぐ身につくのではないが、幼稚園で培ったことや受け入れてもらったことの経験が先にいきってくる。このような先生方の思いや取り組みを保護者に伝わるよう、常にいろいろな方法で伝えていく必要がある。